



何かに夢中って  
素晴らしい!!

# シャカリキ

瓦版  
VOL.8  
2014年9月

【シャカリキ】[名][形動]夢中になって何かに取り組むこと。お釈迦様が人々の幸せのために力の限りを尽くしたことから、このような姿を「お釈迦様の力=釈迦力」というようになりました。



妙見山法得寺

〒546-0012 大阪市東住吉区中野4-5-26  
Tel.06-6702-7373 Fax.06-6700-6002  
e-mail: info@houtokuji.net

永代供養専用ダイヤル Tel.06-4302-4194 (はいくよう)  
ホームページ <http://www.houtokuji.net>

## けんとうえ 献灯会・地蔵尊法要 ご報告

8月15日・16日の献灯会、24日の地蔵盆の行事をすべて執り行うことができ、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

15日は直前まで局地的大雨に見舞われ、境内での献灯も危ぶまれていた中、開催時刻に合わせたように雨雲が引き始め、参加者の表情も笑顔に変わっていききました。

今回初めての献灯会。法得寺では準備段階で様々な模索がありました。一番の基本はお金をかけずに(笑)手作りで行うということ。

まず、ろうソク台となる竹の入手です。これは森川弘子さんのご実家(岡山県湯原)の竹を利用してはとの申し出を頂戴し、坂根総代と共に現地竹藪にて伐採、裁断。高齢のお父様や弟さんにも大変ご協力を頂きました。そうして持ち帰った竹は信者さんのご協力ですばらしいものとなりました。

次の課題は、芯の細い市販の平たいろうソクではすぐ火が消えてしまう。そこで信者さんの発案によりお弁当用のアルミ箔を巻いて風除けにすると大成功。

準備と平行して気になるのは、肝心の燈明申し込みの数が未知

数であること。当初は先祖供養と願い事を一つでも書いていただければと思っていましたが、何と多くの方から複数の申し込みを頂き(計228)、境内いっぱいを迎え火そして送り火があんなに明るく灯されることとなり感謝に堪えません。

お陰で、燈明の文字を集中すれば一気に書き上げられる積もりでいた光榮上人だけでは追いつかず、直前には御前様自ら筆をとっていただく場面もありました(笑)。

灯されたご自分の燈明を確認して歩く人々、そして本堂での読経、締めの一合法話。最後は氷のように冷たいラムネを戴きながら帰路に就きました。

翌16日も無事に燈明を灯すことができ、計50名以上の参加者の皆様にはお疲れ様でございました。ただ今回の初めての試みを通じて感じることは、献灯会というのは決して両日だけのことではなく、準備するときの気持ちとその目へと

繋がっていくものかもしれません。

来年は是非、ほんの一部でもかまいません、ご自分の願い事を手書きされませんか。竹に貼り合わせて燈明を作ってみませんか。夜は足元も不如意で出にくいかもしれませんので、出来る形でご参加くださいませ。

また、事前に参加意思を伝えてもらえる方は、どうぞ、自らの手でろうソクの火を灯してみてくださいませんか。



続きまして、24日地蔵尊の提灯は、新規のご注文もまた頂戴し、昨年引き続き山門入り口から奥まで境内いっぱい吊るされました。延命地蔵尊の前には沢山のお供物が供えられ、昨年は膝の手術で入院中だった住職の、力強い読経の声が堂内に響き渡りました。

今年の夏も全国各地が異常気象の渦に巻き込まれました。今生きていることに感謝し、日々ご精進ください。法得寺も今後共皆さんと共に歩んで行きたいと思っております。ありがとうございました。



行事の写真はホームページでご覧いただけます。